

SVC070-P27

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

霧島山（新燃岳）噴火後に発生した土砂移動現象について

Secondary sediment movement phenomena observed after the 2011 eruption of Mt. Kirishima

山越 隆雄^{1*}, 木佐洋志¹, 石塚忠範¹

Takao Yamakoshi^{1*}, Hiroshi Kisa¹, Tadanori Ishiduka¹

¹ 土木研究所

¹Public Works Research Institute

2011年霧島山（新燃岳）噴火の結果、新燃岳の南東方向に火山灰が厚く堆積した。噴火後何回かの雨が降った後の2月18日のヘリ調査では、火山灰が厚く堆積していると考えられる高千穂岳南側斜面の荒川内川、荒襲川上流域に二次的な土砂移動の痕跡が認められたことから、堆積物を現地で確認した。

規模は小さく、土砂量等は不明であるが、堆積物の先端は、標高1,000m付近に達し、過去の軽石や溶岩片が堆積するガレ場上で停止していた。堆積物は、主に粗砂、細礫の土砂で構成され、表面に軽石が目立つものの、その下部については、特に目立った層構造は見えなかった。一方、先端部の形状が舌状を呈し、土砂が通過した両側に、土石流堤防の形成が見られる等、堆積物の形状としては、土石流堆積物の特徴を有していることから、ここで確認された土砂移動現象は、小規模ながら土石流であったと推定される。なお、土石流であるにせよ、勾配が急な斜面（約30°）で停止している。これは、今後の調査結果にもよるが、一般的に考えられることとしては、溪床の透水性が高いために土石流内の水が失われたからではないかと考えられる。最後に、ガレ場から下流では、両側に接続する斜面からの土砂流出の痕跡が認められはしたが、上流からの土砂が流下した痕跡は認められなかった。

キーワード: 土石流, 火山灰

Keywords: debris flow, volcanic ash